

市長就任あいさつ

岡谷市長

早出そうで一真かずま



9月25日 岡谷市長選挙 当選証書附与式



このたびの岡谷市長選挙におきまして、市民の皆様のご支持をいただき、市政を担わせていただくことになりました。改めて責任の重大さを痛感するとともに、皆様から寄せられました期待と信頼に応えなければならぬという使命感で身の引き締まる思いであり、その責任を果たして行く決意であります。

私たちの住む岡谷市は、諏訪湖の西岸に面し、北は塩嶺王城県立公園、東には八ヶ岳連峰、遠くには富士山を臨む、湖と四季を彩る山々に囲まれた美しい自然の中にあり、これまで本市の礎を築いてきました先人の皆様の歴史や文化、そして伝統を引き継ぎながら、人と自然が共生する健康で文化的な活力あるまちづくりを進めてきております。

しかしながら、多くの地方自治体と同様に少子高齢化や人口減少、国際情勢等に起因する物価高騰への対応に加え、本市の基幹産業であります製造業を中心とした企業活動を支える取り組みを適時適切に講じていかなければなりません。さらに、子育てや教育環境の整備、福祉サービスの充実、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取り組み、激甚化・頻発化する自然災害に備えた防災・減災対策など様々な課題があります。

このような状況下ではありますが、一つひとつの課題を確実に解決しながら、市民の皆様の声に真摯に耳を傾け、一人ひとりが「主人公」となり希望にあふれるまちを創りあげていきたいと考えております。

『笑顔』と『元氣』あふれる岡谷のために」をスローガンに掲げ、市民の皆様の知恵と技術を取り入れ、公約に掲げました政策に積極果敢にチャレンジして「人を想い、まちを想い、未来を想い」続け、市政運営に全力で取り組んでまいります。

結びに、市民の皆様におかれましては、市政へのご理解とご協力を心からお願いいたしまして、市長就任のあいさつとさせていただきます。

〈特集〉川岸駅開業100周年

ありがとう。

川岸驛



よろしくね。

新・川岸駅

川岸駅にかけられていた駅名標 | 制作者・制作年不詳 新駅舎に移設予定

明治初期から栄えたシルク産業を背景に、民間の力によって開業されたという誇るべき歴史を持つ川岸駅は、今年で開業100周年を迎えます。その歴史を振り返りながら、建て替えられ10月下旬に使用開始となる新しい駅舎を紹介します。

ありがとう。

百年。

1923年・大正12年

2023年・令和5年

100



川岸駅の歴史

岡谷市は明治初期より、日本における生糸の一大生産地として発展してきました。特に川岸地区には多くの製糸工場があり、工場の煙突が林立する風景が広がっていました。しかし川岸地区は鉄道の駅から遠く、繭や石炭などの物資の運搬は、長年天竜川を行き交う船に頼らざるを得ませんでした。そこで、意を決した川岸村の有志のみなさんが、土地を無償で提供し、さらに多くの寄付金を集め、負担したことで、大正12年10月28日、民間の力による「川岸駅」が開業しました。

《年表》

- 明治38年 富士見から岡谷まで開通
- 明治39年 岡谷から塩尻まで開通
- 大正10年 川岸駅設置期成同盟会を組織
- 大正12年 10月28日 川岸駅開業
- 昭和29年 1日平均乗降客数953人
貨物量約100トン(最大)
- 昭和38年 一部業務を民間企業へ業務委託
- 平成4年 完全無人駅となる
- 平成15年 JR東日本から建て替えの提案があったが規模が小さく実施に至らず
- 平成16年 岡谷市により公衆トイレ(水洗式)が設置される
- 令和3年 岡谷市・川岸駅を守る会により駐輪場が建て替えられる
- 令和3年 JR東日本から駅舎建て替えの打診を受ける
- 令和4年 JR東日本へ駅舎建て替えを要望



昭和41年12月 国鉄「あずさ」開通



昭和48年10月 川岸駅開業50周年記念航空写真絵葉書



昭和48年10月 川岸駅開業50周年記念



昭和48年10月 川岸駅開業50周年記念

懐かしの写真館

撮影・複写
鮎澤毅さん



大正12年 川岸駅開通式典に集まった川岸村民



大正12年 川岸駅開業当時の絵葉書



大正12年 川岸駅開業当時の絵葉書(にぎわう観蛸橋)



大正12年 川岸駅開通式典絵葉書



令和5年3月 川岸駅外観

- 令和5年5月 駅舎お別れの会を実施
 - 令和5年6月 旧駅舎解体
 - 令和5年10月 新駅舎完成
- 開業100周年を迎える

先人の功績を 忘れないで

子どものころはまだ蒸気機関車が走っていました。親に連れられて川岸駅から汽車に乗り、岡谷のお祭りや上諏訪の温泉に行ったものです。遠出するときは、トンネルを抜けると顔が煤で真っ黒になったことを思い出しますね。線路の近くに住んでいたので、走っている汽車を見るのも好きでした。中学3年生のころから写真を撮っていて、昭和40年ごろからライフワークとして川岸を中心に主に諏訪の風土を写真で記録し郷土史を調べていますが、川岸駅開業に尽力された先人のことを知るほど、この功績を地元民は忘れてはいけなさと感じていきます。



鮎澤区在住・アマチュア写真家
鮎澤 毅さん (85歳)

愛されてきた川岸駅舎

古くは、シルク産業の発展のため、また現代に至っては、通勤・通学、買い物のためなど、川岸地区の西の玄関口として長年愛されてきた川岸駅は、老朽化のため、たびたび駅舎の建て替えが検討されてきました。令和3年にJR東日本から再度建て替えの打診があり、川岸5区の区長らで構成する「川岸駅を守る会」などで検討した結果、設計に住民の意が反映されていることや、今年駅開業100周年を迎えることなどから、建て替えることが決定しました。

取り壊されるのを前に、5月14日、「川岸駅を守る会」などでつくる実行委員会が主催した「駅舎お別れの会」が開かれました。有志による催し物が披露されるなど、市民による温かな会は、山口駅長らにより下ろされた駅名標を囲んで、参加者全員で記念写真を撮り、幕を下ろしました。記念の缶バッジも配られ、あいくの雨にもかかわらず約250人が参加し、それぞれがお世話になった駅舎に別れを告げました。



5月14日の「駅舎お別れの会」のようす | ①記念撮影をする参加者 ②缶バッジを手にする家族
③駅名標を囲んでの記念撮影(鮎澤毅さん撮影)

川岸駅は川岸地区の住民のシンボリックな存在で、先人たちが熱い想いで駅開業に至った経緯を写真や書物で見ると、ご苦労を感念を申し上げたいと思います。西口の要所として、100年の長い歴史の中で地元の人たちが大事にしてきた駅です。お別れ会をすることで、一つの歴史にピリオドを打つて節目を迎えられ、有終の美を飾ることができたと思っております。



川岸駅駅舎建替イベント実行委員長 鮎澤 要一さん

わたしたち「川岸駅を守る会」は、川岸駅周辺の5区、新倉区、鮎沢区、駒沢区、三沢区、橋原区で構成されています。プランターに花を植えたり、防犯パトロールや掃除などの活動を通して、川岸地区にとって大事な駅を大切に守ってきました。新しい駅舎は以前の駅舎の雰囲気も残した温かみのある建物になります。このかたちを残し、またこの後も100年以上末長く続くように願っています。



新倉区長・川岸駅を守る会会長 三澤 房樹さん

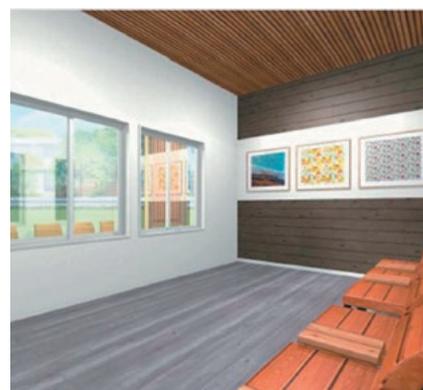
生まれ変わった新・川岸駅

New

新しい駅舎は、JR東日本により、コンパクトで安全安心な駅舎に生まれ変わりました。今後も、今までの100年と同じように歴史を培い地域で大切に守っていきます。

Point

- 旧駅舎と屋根の形や色を合わせ旧駅舎の雰囲気継承
- 旧駅舎の駅名標を移設
- ドアが付き、独立した部屋になった待合スペース
- 駐輪場を移設し、広く使いやすくなった駅前広場
- リニューアルされ、きれいで使いやすくなった公衆トイレ



新駅舎完成イメージ 内観

新駅舎完成イメージ 外観



工事中のようす (9月15日撮影)



工事中のようす (9月15日撮影)



工事中のようす (9月15日撮影)

新しい駅舎は、10月下旬から利用開始となります



川岸支所
TEL 23-2200

10月下旬の利用開始に合わせ、
歴史に残り、市民のみなさんに喜んでもらえる
式典を予定しています。